

令和四年栃木県支部賀詞交歓俳句大会成績（紙上）

令和四年二月

守屋明俊選（本部選者）

特選 信楽の壺に火を挿す櫛紅葉

後藤 房江

特選 あやまちの美しかりし返り花

三橋 順子

特選 煮え端の土鍋をかこむ今年米

岩瀬とき子

帯解やうねりて砂利の女坂

福嶋 保

柘榴爆ぜ火の山雲を脱ぎ捨つる

和泉 澄雄

枯葉鳴らして一山の昏れにけり

五十畑悦雄

男体山に初雪軒に酒林

高島 文江

研ぎに研ぎ店の鋏や冬三日月

酒井 博子

赤とんぼ止り直して馬場の柵

前野 洋子

鴨の影琥珀の月をよぎりけり

森戸 光子

山積みの薪を枯蔦袈裟懸けに

亀田やす子

蜘蛛の囿のそこと知らるる雫かな

佐藤 淑子

枯菊の終の軽さとなりけり

関田 和子

転勤の辞令に逸る雪解水

大島 知子

家中に柚子煮る匂ひ富むごとし

武石由利子

綿虫や笑ひ閻魔の堂あたり

木野 泰男

吉右衛門の弁慶逝けり寒昴

富澤 宏子

走り根の伏兵隠る枯葉道

泉 ゆき子

コロナ禍や烏兔忽忽の師走入り

田口 和司

子の寝顔灯す夜長のテレワーク

片庭 恭子

桑原まさ子特選

百歳の笑顔くづさず菊脛

石川 定子

大高松竹特選

冬の鯉ひしめきて音なかりけり

伏木 ケイ

平手ふじえ特選

冬の鯉ひしめきて音なかりけり

伏木 ケイ

蓮實淳夫特選

朝日まだ狭にとどかず小鳥来る

鈴木たみ女

落合 惑水特選

ほぎのごと風花任地への一步

川勾 幸子

亀田やす子特選

小春日や頬を擦り合ふ親子鹿

茂木 弘子

本多芙美子特選

干大根直ぐも拗ねるもかがやけり

中島 利江

芝山要作特選

投げ銭をギターケースに寒昂

野澤恵美子

関田和子特選

綿虫や青の世界のピカソ展

星田 一草

高橋志津子特選

しぐるるや和紙工房の外籠

大高 松竹

中世古道子特選

甘んじて受くる情けや室の花

猪瀬きみ女

中田亮特選

僅かなる日差しを揺すり紙を漉く

大高 松竹

星揚子特選

縄飛びの子の宙に浮く影の浮く

山岸 修兎

星野乃梨子特選

僅かなる日差しを揺すり紙を漉く

大高 松竹

細井寿子特選

茅葺きの煤けし軒の垂氷かな

加藤多美子

増田幸子特選

綿虫や青の世界のピカソ展

星田 一草